

<記 入 例>

履 歴 書					
フリガナ	ガイダイ タロウ	男	生 年 月 日	本 籍 地	カラー写真 3×4 データ添付
氏 名	外大 太郎		西暦 1945年11月11日生 (満 77 才)	大阪 府	
フリガナ	オオサカフ ヒラカタシ ナカミヤヒガシノチョウ	電話	072-805-2801		
現住所	大阪府枚方市中宮東之町16-1 〒 573 - 1001	FAX	072-805-2863		
		e-mail:	gaitaro@kansai-gaidai.ac.jp		

入職予定日時点のご年

I. 現在の勤務状況(非常勤講師先も含む)

・・・大学・・・学部教授
・・・大学・・・学部講師 (非常勤)

現在の勤務状況のうち、記載の職歴に関して、Ⅲ.職歴欄と一致するよう記載してください。

非常勤講師
×

II. 学 歴 (高校入学時から記入)

年 月	事 項
1990年 4月	・・・県立・・・高等学校 入学
1993年 3月	・・・県立・・・高等学校 卒業
1993年 4月	・・・大学・・・学部・・・学科 入学
1997年 3月	・・・大学・・・学部・・・学科 卒業 学士 (・・・)
1997年 4月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(前期) 入学
1999年 3月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(前期) 修了 修士 (・・・)
1999年 4月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(後期) 入学
	a. 学位を得た場合
2002年 3月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(後期) 修了 博士 (・・・)
	b. 単位取得退学した場合
2002年 3月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(後期) 退学 (単位取得修了)
	修士課程・博士課程、博士前期課程・博士後期課程など、各大学や取得年度で学位の名称が異なりますので、成績証明書または卒業(修了)証明書等にもとづき正確に記載してください。

※海外の大学等での学歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットで記載してください。
例) ...University, Ph.D. ()

※大学院の課程を経ずに学位(論文博士)を取得した場合は、次のように記載してください。
【例】a. 1990 年以前 → 1985 年6 月 △△博士(○○大学)

<記 入 例>

Ⅲ．職 歴〔職歴のすべて(現職も含む)について記入。学校勤務の場合は担当科目も記入。〕

年 月	事 項
2002年 4月	…大学…学部講師（非常勤）（…、…担当）（現在に至る）
2003年 4月	…大学…学部講師（…、…担当）（2006年3月まで）
2006年 4月	…大学…学部准教授（…、…担当）（2012年3月まで）
2012年 4月	…大学…学部教授（…、…担当）（現在に至る）
2014年 4月	…大学大学院…研究科…専攻教授（…、…担当） （2020年3月まで）
2016年 8月	文科省大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において…大学…学部 …学科教授（…担当）「可」判定
2018年 9月	アメリカ…University（文科省在外研究員）（2019年8月まで）
2021年 3月	…大学退職 ←専任を退職の場合

※T.A.歴 ティーチングアシスタント(指導教授などの授業補助)についての教歴も記載してください。

非常勤講師 ×
講師(非常勤) ○

Ⅳ．学会ならびに社会における活動等

年 月	事 項
2003年 4月	…学会会員（ 年 月まで）または（現在に至る）
2006年 4月	…学会会員（現在に至る）（ 年 月から 年 月まで評議員）
2012年 4月	…学会会員（現在に至る）（ 年 月から常任理事）

Ⅴ．賞 罰

年 月	事 項
	特になし。

20〇〇年〇月〇日

上記のとおり相違ありません。

氏 名 外 大 太 郎

再提出する場合、日付は再提出日に更新してください。

署名は、直筆でなくても問題ありません。直接、氏名を入力してください。

<記 入 例>

再提出する場合、日付は再提出
日に更新してください。

教 育 研 究 業 績 書

年 月 日まで

氏名 外 大 太 郎

既発行・既発表のみ記載してください。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概要 (150字～200字程度／英語・スペイン語の場合は100語程度にまとめて記載)	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
1. 著書 (1) ※数字に () つける『○○○』 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入)	単	20○○年○月○日	○○社(「著書のタイトル」)	○○p.	本書では、○○について考察し、○○○を提案した。	
(2) 『○○○』	共	20○○年○月○日	○○新書	○○p.	本書では、○○について議論し、○○○と主張した。 外大次郎(代表者)他○名。	第1章「○○」pp.○～○、 第3章「○○」pp.○～○
2. 学術論文 (1) 「○○○」(修士論文) (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入)	単	19○○年○月○日	○○大学大学院 ○○研究科	○○p.	本論文では、○○について考察を行い、○○を明らかにした。	
(2) “○○○”(博士論文)	単	20○○年○月○日	○○大学大学院 ○○研究科	○○p.	本論文では、○○を取り扱い、○○を議論した。また、○○の分析を通じて○○を提示した。	
(3) 「○○○」	単	20○○年○月○日	○○学会 『○○○』	第○巻 第○号 pp.○～○	本論文では、○○の分析を検討し、反例を示した。次に、○○に着目し、○○の説明を試みた。	
(4) “○○○”	共	20○○年○月○日	○○出版 『○○○』	Vol.○ pp.○～○	○○との共著。本論文では、○○ソフトを用いて○○を調査・分析した。	共同研究・執筆のため、担当部分の抽出不可能。
3. 報告書 (1) 「○○○」 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入)	共	20○○年○月	令和○～○年度 科研費補助金 (基盤研究○) 研究成果報告書 (研究代表者：	○○p.	本研究は、左記の科研費の研究 成果報告書である。研究題目は「○○○」で、○○について先行研究を踏まえて分析を行い、その成果をまとめたものであ	第5章「○○」pp.○～○、 第7章「○○」pp.○～○

＜記 入 例＞

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年 月 日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概 要 (150 字～200 字程度／英語・スペイン語の場合は 100 語程度にまとめて記載)	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
4. 口頭発表 (1) 「○○○」 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入) (2) “○○○” 5. その他 (1) (書評)「○○○」 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入) (2) (辞書)『○○辞典』 (3) (教科書)「○○○」 (4) (予稿集) “○○○”	単 単 単 共編 共 単	20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日	○○○○) 第○回○○学会 (於：○○大学) 第○回○○学会 ○○大会 (於：○○大学) ○○出版 『○○○』 ○○書店 ○○出版 第○回○○学会 シンポジウム (於：○○大学)	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ 第○号 p.○ pp.○～○	る。 「口頭発表」と同一またはほぼ同一の内容を、学術論文などとして発表した場合、「概要」欄にはその論文と同一であるかを記載してください。(例：「論文1と同じ」) 「論文 (3)」と同じ。 本発表では、○○○について見解を述べた。 『○○○』の書評。本書は、○○の目的で書かれたものである。書評では、○○を指摘して、問題点と思われることを示した。 本書では、編集協力者を務めつつ、○○を担当した。 本書は、○○学習者向けに○○が理解できるようにするという目的で書かれたものである。 外大花子、<u>外大太郎</u>、中宮三郎、御殿山四郎。 「口頭発表 (2)」と同じ。	第2章「○○」 pp.○～○、 第4章「○○」 pp.○～○ 第6章「○○」 第1節「○○」 pp.○～○

分類に関係なく通し番号を付してください。

<記 入 例>

履 歴 書					
フリガナ	ガイダイ タロウ	男	生 年 月 日	本 籍 地	カラー写真 3×4 データ添付
氏 名	外大 太郎		西暦 1945年11月11日生 (満 77 才)	大阪 府	
フリガナ	オオサカフ ヒラカタシ ナカミヤヒガシノチョウ	電話	072-805-2801		
現住所	大阪府枚方市中宮東之町16-1 〒 573 - 1001	FAX	072-805-2863		
		e-mail:	gaitaro@kansaiheidai.ac.jp		

入職予定日時点のご年

I. 現在の勤務状況(非常勤講師先も含む)

・・・大学・・・学部教授
・・・大学・・・学部講師 (非常勤)

現在の勤務状況のうち、記載の職歴に関して、Ⅲ.職歴欄と一致するよう記載してください。

非常勤講師
×

II. 学 歴 (高校入学時から記入)

年 月	事 項
1990年 4月	・・・県立・・・高等学校 入学
1993年 3月	・・・県立・・・高等学校 卒業
1993年 4月	・・・大学・・・学部・・・学科 入学
1997年 3月	・・・大学・・・学部・・・学科 卒業 学士 (・・・)
1997年 4月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(前期) 入学
1999年 3月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(前期) 修了 修士 (・・・)
1999年 4月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(後期) 入学
	a. 学位を得た場合
2002年 3月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(後期) 修了 博士 (・・・)
	b. 単位取得退学した場合
2002年 3月	・・・大学大学院・・・研究科・・・専攻博士課程(後期) 退学 (単位取得修了)
	修士課程・博士課程、博士前期課程・博士後期課程など、各大学や取得年度で学位の名称が異なりますので、成績証明書または卒業(修了)証明書等にもとづき正確に記載してください。

※海外の大学等での学歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットで記載してください。
例) ...University, Ph.D. ()

※大学院の課程を経ずに学位(論文博士)を取得した場合は、次のように記載してください。
【例】a. 1990 年以前 → 1985 年6 月 △△博士(○○大学)

<記 入 例>

Ⅲ．職 歴〔職歴のすべて(現職も含む)について記入。学校勤務の場合は担当科目も記入。〕

年 月	事 項
2002年 4月	…大学…学部講師（非常勤）（…、…担当）（現在に至る）
2003年 4月	…大学…学部講師（…、…担当）（2006年3月まで）
2006年 4月	…大学…学部准教授（…、…担当）（2012年3月まで）
2012年 4月	…大学…学部教授（…、…担当）（現在に至る）
2014年 4月	…大学大学院…研究科…専攻教授（…、…担当） （2020年3月まで）
2016年 8月	文科省大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において…大学…学部 …学科教授（…担当）「可」判定
2018年 9月	アメリカ…University（文科省在外研究員）（2019年8月まで）
2021年 3月	…大学退職 ←専任を退職の場合

※T.A.歴 ティーチングアシスタント(指導教授などの授業補助)についての教歴も記載してください。

非常勤講師 ×
講師(非常勤) ○

Ⅳ．学会ならびに社会における活動等

年 月	事 項
2003年 4月	…学会会員（ 年 月まで）または（現在に至る）
2006年 4月	…学会会員（現在に至る）（ 年 月から 年 月まで評議員）
2012年 4月	…学会会員（現在に至る）（ 年 月から常任理事）

Ⅴ．賞 罰

年 月	事 項
	特になし。

20〇〇年〇月〇日

上記のとおり相違ありません。

氏 名 外 大 太 郎

再提出する場合、日付は再提出日に更新してください。

署名は、直筆でなくても問題ありません。直接、氏名を入力してください。

<記 入 例>

再提出する場合、日付は再提出
日に更新してください。

教 育 研 究 業 績 書

年 月 日まで

氏 名 外 大 太 郎

既発行・既発表のみ記載してください。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概要 (150字～200字程度／英語・スペイン語の場合は100語程度にまとめて記載)	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
1. 著書 (1) ※数字に () つける『○○○』 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入)	単	20○○年○月○日	○○社(「著書のタイトル」)	○○p.	本書では、○○について考察し、○○○を提案した。	
(2) 『○○○』	共	20○○年○月○日	○○新書	○○p.	本書では、○○について議論し、○○○と主張した。 外大次郎(代表者)他○名。	第1章「○○」pp.○～○、 第3章「○○」pp.○～○
2. 学術論文 (1) 「○○○」(修士論文) (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入)	単	19○○年○月○日	○○大学大学院 ○○研究科	○○p.	本論文では、○○について考察を行い、○○を明らかにした。	
(2) “○○○”(博士論文)	単	20○○年○月○日	○○大学大学院 ○○研究科	○○p.	本論文では、○○を取り扱い、○○を議論した。また、○○の分析を通じて○○を提示した。	
(3) 「○○○」	単	20○○年○月○日	○○学会 『○○○』	第○巻 第○号 pp.○～○	本論文では、○○の分析を検討し、反例を示した。次に、○○に着目し、○○の説明を試みた。	
(4) “○○○”	共	20○○年○月○日	○○出版 『○○○』	Vol.○ pp.○～○	○○との共著。本論文では、○○ソフトを用いて○○を調査・分析した。	共同研究・執筆のため、担当部分の抽出不可能。
3. 報告書 (1) 「○○○」 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入)	共	20○○年○月	令和○～○年度 科研費補助金 (基盤研究○) 研究成果報告書 (研究代表者：	○○p.	本研究は、左記の科研費の研究 成果報告書である。研究題目は「○○○」で、○○について先行研究を踏まえて分析を行い、その成果をまとめたものであ	第5章「○○」pp.○～○、 第7章「○○」pp.○～○

＜記 入 例＞

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年 月 日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ	概 要 (150 字～200 字程度／英語・スペイン語の場合は 100 語程度にまとめて記載)	共著の場合担当部分の章・節、題名、ページ
4. 口頭発表 (1) 「○○○」 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入) (2) “○○○” 5. その他 (1) (書評)「○○○」 (該当がなければ項番を削除し「なし」と記入) (2) (辞書)『○○辞典』 (3) (教科書)「○○○」 (4) (予稿集)“○○○”	単 単 単 共編 共 単	20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日 20○○年○月○日	○○○○) 第○回○○学会 (於：○○大学) 第○回○○学会 ○○大会 (於：○○大学) ○○出版 『○○○』 ○○書店 ○○出版 第○回○○学会 シンポジウム (於：○○大学)	著書は総ページ数、学術論文等は巻、号、ページ 第○号 p.○ pp.○～○	る。 「口頭発表」と同一またはほぼ同一の内容を、学術論文などとして発表した場合、「概要」欄にはその論文と同一であることを記載してください。(例：「論文1と同じ」) 「論文 (3)」と同じ。 本発表では、○○○について見解を述べた。 『○○○』の書評。本書は、○○の目的で書かれたものである。書評では、○○を指摘して、問題点と思われることを示した。 本書では、編集協力者を務めつつ、○○を担当した。 本書は、○○学習者向けに○○が理解できるようにするという目的で書かれたものである。 外大花子、<u>外大太郎</u>、中宮三郎、御殿山四郎。 「口頭発表 (2)」と同じ。	第2章「○○」 pp.○～○、 第4章「○○」 pp.○～○ 第6章「○○」 第1節「○○」 pp.○～○

分類に関係なく通し番号を付してください。

エントリーに係る提出書類の記載要領

- 「年月日」の記載は 西暦 をお願いします。
- 再提出する場合、日付は再提出日に更新してください。

I. 履 歴 書

1. 「年齢」の欄

採用予定日における満年齢を記載する。

2. 「現在の勤務状況」の欄

- (1) 現在の勤務先・職名を非常勤講師先なども含め記載する。 ○○大学○○学部○○学科 講師（非常勤）
- (2) 記載された現在の勤務状況は、「職歴」欄にも記載する。

3. 「学歴」の欄

- (1) 高校入学時から記載する。
- (2) 上記以後の入学、卒業、修了、取得学位、退学などのすべてについて記載する。
- (3) 修士課程、博士課程の表し方については、次の例を参照する。
〔例〕 a. 1990 年 4 月 △△大学大学院△△研究科△△学専攻博士課程（前期）入学
b. 1992 年 4 月 △△大学大学院△△研究科△△学専攻博士課程（後期）入学
その他、修士課程・博士課程、博士前期課程・博士後期課程など、各大学により名称が異なることもあるので 成績証明書、修了証明書等に基づき正確に記載する。
- (4) 修士課程・博士課程の修了などについては、次のように記載する。
a. 学位を得た場合 …………… 博士課程(前期)修了 (△△修士) / 修士 (△△)
…………… 博士課程(後期)修了 (△△博士) / 博士 (△△)
b. 所定単位を取得したが、学位を得なかった場合 …… 博士課程(後期)退学 (単位取得修了)
/ (研究指導終了)
c. 所定単位を満たさなかった場合 …………… 博士課程(後期)退学
- (5) 大学院の課程を経ずに学位（論文博士）を取得した場合は、次のように記載する。
〔例〕 a. 1990 年以前 →1985 年 6 月 △△博士 (○○大学)
b. 1991 年以降 →1993 年 3 月 博士 (△△) ○○大学
- (6) 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記載する。
- (7) 海外の大学等での学歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等は アルファベットで記載する。

4. 「職歴」の欄

- (1) 職歴のすべて(自営業、無職等を含む)について年月順(過去→現在)に記載し、大学名、学部名、学科名、職名、地位、担当科目名（主要科目 2 科目以内）などは正確に記載する。
大学院での教歴がある場合は、当該大学院の研究科、専攻、主な担当授業科目名等を記載する。
- (2) 過去に文部科学省の教員資格審査で教員の資格があると認められた方は、当該教員資格審査に係る大学名、審査の年月、職名および担当授業科目名等を記載する。
- (3) 同一の勤務先で職名などが変更になった場合は、次の例を参照する。
〔例〕 a. 2007 年 4 月 △△大学△△学部△△学科准教授 (△△担当) (2015 年 3 月まで)
b. 2015 年 4 月 △△大学△△学部△△学科教授 (△△担当) (現在に至る)
- (4) 職を辞した場合は、次の例を参照する。
〔例〕 a. 1996 年 4 月 △△大学△△学部△△学科講師 (非常勤) (△△担当) (2007 年 3 月まで)
b. 2007 年 4 月 ○○大学○○学部○○学科准教授 (△△担当) (2015 年 3 月まで)
c. 2015 年 4 月 □□大学□□学部□□学科准教授 (△△担当) (現在に至る)
- (5) 高等学校の種別については、次の例を参照する。
〔例〕 a. 公立高 …… △△県立△△高等学校講師 (定時制課程) (非常勤) (△△担当) (2000 年 3 月まで)
b. 私立高 …… △△学園高等学校教諭 (△△担当) (現在に至る)
- (6) 大学の種別については、次の例を参照する。
〔例〕 a. 国立大 …… △△大学△△学部△△学科講師 (非常勤) (△△担当) (2000 年 3 月まで)
b. 公立大 …… △△県立△△短期大学△△科准教授 (△△担当) (現在に至る)
c. 私立大 …… △△大学△△学部△△学科教授 (△△担当) (現在に至る)

- (7) 海外留学や在外研究員などの職歴については、その年月、行先国名、大学・研究所名、費用負担などを記載する。
〔例〕 a. 2000年6月～2001年3月 アメリカ △△大学（文部科学省在外研究員）
b. 2001年6月～2002年3月 イギリス △△研究所（私費）
- (8) ティーチング・アシスタントの経験がある場合も、職歴に記載する。
- (9) 教員以外の職歴については、勤務先、職名、地位、職務内容などがわかるように記載する。
5. 「学会ならびに社会における活動」の欄
- (1) 所属学会
- a. 現在所属している学会および過去に所属していた学会の名称を、加入した年月順（過去→現在）に記載する。
学会において役員などを勤めている場合には、その職名を（ ）内に記載する。また、退会の場合にはその年月も（ ）内に記載する。
〔例〕 1991年4月 △△学会会員（2000年3月まで）または（現在に至る）
1993年4月 □□学会会員（1995年4月から1997年4月まで 評議員）
2000年4月 ○○学会会員（2015年4月から現在に至る 常任理事）
- b. 学会以外の団体に所属している場合には、その団体が学会に準じる程度の水準や規模であるものについて記載する。
- (2) 社会における活動
- 専攻研究分野などに関連した事項について、全国的または都道府県における活動、および学会に準じる程度の水準や規模における活動について記載する。
6. その他、履歴書にはカラー写真（3 cm×4 cm、3ヶ月以内に撮影したもの）を添付すること。

II. 教育研究業績書

1. 「著書、学術論文等の名称」の欄
- (1) 専攻研究分野などに関連した業績を、「1. 著書」、「2. 学術論文」、「3. 報告書」、「4. 口頭発表」、「5. その他」の項に分類し、各項ごとの業績を、発行・発表の年月順（過去→現在）に記載し各項目内で一連の番号（『（1）～』）を付す。
「5. その他」は分類に関係なく通し番号を付す。（既発行・既発表のみ）
- (2) 記入する事実がない場合は『なし』と記載する。
- (3) 修士論文、博士論文については、その論文名の後に（修士論文）（博士論文）と記載する。
- (4) 学術論文を著書として発表している場合は、「1. 著書」欄に記載する。
- (5) 書籍の形式であっても、数ページの投稿記事、インタビュー記事、報告書等は、「1. 著書」ではなく、「5. その他」の欄に記載する。
- (6) 「著書」、「論文」はサブタイトル等を含めて、発行・発表通りに記載する。
- (7) 学術論文等において、同一の名称で(上)(下)や(一)(二)・・・などを付して連載した場合は、原則として同一のものとし、1本に数える。
- (8) 辞書・事典などの分担執筆は、原則として「その他」の分類に入れ、かつ、分担項目などが客観的に明確な場合のみについて記載する。書評・教科書・テキスト、Proceedings（予稿集）についても「その他」の分類に入れる。
口頭発表の後に、発表内容を論文化したもの、発表後に加筆修正した場合は「論文」の分類に入れる。
- (9) 「口頭発表」と同一またはほぼ同一の内容を、学術論文などとして発表した場合、「概要」欄にはその論文と同一であるかを記載する。（例：「論文1と同じ」）
- (10) 科学研究費助成事業等外部研究費の取得状況、他研究機関との共同研究の実績等は、「5. その他」に記載する。
2. 「単著・共著の別」の欄
- (1) 1.の各分類の業績ごとに、「単」、「共」の区別を記載する。
- (2) 「共」の場合には「概要」欄に本人氏名を含めた全員の氏名を、当該の著書、学術論文などに記載された順に記載する。ただし、共著者の数が多く、「概要」欄に書くことが困難な場合には、「○○○○（代表者）他△△名」としてもよい。
なお、分担執筆の場合には、担当部分の章・節、題名、ページ（pp. △△～△△）を、「概要」欄の右横に明記する。
3. 「発行又は発表の年月」の欄
- 発行・発表の年月を、その順（過去→現在）に記載する。
4. 「発行所、発表雑誌など又は発表学会などの名称」の欄
- (1) 著書、学術論文などの発行所（発行団体）、発表雑誌、発表学会などの名称を記載する。
- (2) 著書には総ページ数を記載する。学術論文などの発表雑誌には、巻、号、ページ（pp. △△～△△）をも記載する。

5. 「概要」の欄

- (1) 著書、論文、報告書、口頭発表などの内容を日本語で 200 字程度にまとめて記載する。(英語またはスペイン語で記載する場合、100 語程度にまとめて記載)
- (2) 共同研究等により、本人の担当部分（ページ）を抽出することが困難な場合は、その旨を明記する。

【記入例】 共同研究・執筆のため、担当部分の抽出不可能。